

マザーハウス

たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



表紙…光りんさん「一輪のバラの花を…」

♪移送・出所される方は必ずご一報ください。
MLP（文通）に参加している方は文通相手へのお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出人欄の住所で確認できるため）。MLPに参加していない方は事務局にご連絡ください。
♪23ページのお知らせをご確認願います。

- 2 理事長挨拶
- 7 特別コーナー
- 11 社会の声
- 16 ささきみつおコーナー
- 17 育児日記
- 17 塀の中のたより
- 20 健康相談窓口
- 21 ラブリー-DAYS
- 21 回復プログラム 実践
- 22 プリズムアート倶楽部
- 23 行事予定

理事長挨拶

皆さん、こんにちは。とても暑い日が続いています。東京では、コロナ感染症の患者が一日五千人以上となりました。

先日、F刑務所から女性の方が社会復帰してきました。その方は刑務所にいるときにキリスト教の洗礼を神父から授けて頂きました。受刑中に大きな出会いがあったのだと思います。これからキリストと共に歩んでいくことを祈っています。また、アルコール依存のHさんも、自分から「教会に行きたい」と言い出してから毎週通っているようです。神様を信じることからすべてが変わっていくのだと思います。見方が変わるのだと思います。惑わしに遭った時は、初心にかえり、司祭やシスター、仲間と会って現状を正直に話して聖霊による深い交わりを持つことで回復して行きます。聖書が読めない、祈りができない、色々な妨害が来ます。私自身、沢山の惑わしがありましたが、多くの人の祈りと聖書の言葉によって助けて頂きました。

受刑者の皆さんにとって文通とはどのようなものでしょうか？私は受刑中、孤独でした。孤独の中で自分と向き合うのは困難でした。そんなときにマザーテレサの修道会のシスター、引受人、Y姉さんが手紙を下さり、支えて下さいました。そのような状況であったから自分と向き合うことができたのだと思います。自分と徹底的に向き合うとは、腸（はらわた）が抉られるような思いの中を進んでいくのです。だから自分の欠点が見えてきます。その欠点を修復することで、回復・更生へと繋がるのだと思います。正直な手紙は道が開かれると思います。自分を誤魔化している手紙はよく分かります。綺麗事ばかりを書いても、中途半端に書いても、意味がないのです。

よく、「再び逮捕されました。また文通をしたいです。寂しいです」という手紙が届きます。この人たちの回復は難しいと思います。おんぶに抱っここの状態であり、自分を変えようとしなからず。そして、何で今自分が留置場にいるのかを理解していないと思います。前刑で理解していたのなら、留置場にはいません。逮捕もされません。口先ばかりでは意味がないし、文通相手のことを考えていないのだと思います。日々、考えることなく、ただ、過ごしているのだと思います。

私は神様に祈りながら、聖書の言葉が何を言っているのかを考え、神様に求めました。

そして、文通者に教えてもらいました。聖書の申命記五章十七〜二十一節に、「殺してはならない」「姦淫してはならない」「盗んではならない」「隣人に関して偽証してはならない」「あなたの隣人の妻を欲してはならない。隣人の家、畑、男女の奴隷、牛、ロバなど隣人の物を一切欲しがってはならない」とあります。神様は何でこのようなことを人間に命じたのでしょうか？どうしてだと思いませんか？

是非、何で自分はこういうことをしてしまったのか？どうしてなのか？を徹底的に、自分に聞いてください。そうすれば答えが出てくると思います。答えが出ないのは、向き合っていない証拠だと思います。



tatsuyaさん

私は受刑中にこの十戒のことを学びました。この十戒が刑法の原点だからです。そして、罪からの解放ができるのは神様しかいないと感じたからです。これは他の宗教を否定しているのではなく、私の体験上のことであり、誰にでも土台が必要であると思います。また、受刑中に自分を変えることを実践することが大切です。よく「仮釈放がほしいので、身元引受人になってください」という手紙が来ます。仮釈放がほしいのはよく分かりますが、ただ早く出たいだけであれば何も変わりません。社会は厳しいです。その社会でどう生きて行くか？どのように回復の道を進んで行くか？を自分で考え、計画を立てることが大切です。皆さんは何を考えて受刑生活を送っているのでしょうか？社会復帰したら何とかなると思っているのであれば大きな間違いです。それはとても甘い考えです。

先日、他の理事と一緒に東京保護観察所に伺い、面談してきました。「身元引受とは知り合いの関係であり、知らない者同士では引受人とは違う」と言われました。だからこそ土台を作っていきたいと思っています。高い壁がありますが、マザーハウスに来た出所者が社会の中で土台を作り、回復の道を歩めるようにしていきたいです。

八月十二日に東京地方裁判所刑事部で情状証人としてお話をさせて頂きました。最後に弁護人より、何か言いたいことはありません

か？との質問があったので、「罪を犯した人を罰するのは当たり前のことです。しかしそれ以上に大切なことは、その人たちを回復させることであると思います。今の刑務所は、二人に一人が再犯をしており、犯罪者の養成所になっている状況です。そのようなところに収容させて更生ができるのでしょうか？それよりも、社会の中で、人々との関係の中で、更生の道を歩ませることが重要であると思います。犯罪行為を見るのではなく、裁判官の目の前にいる被告人を見て頂きたいです。そして彼のためにチャンスを与えて頂きたい、寛大なる処置をお願いします」と裁判官にぶつけてきました。孤独の中で更生・回復はできないと思います。自分からプライドを捨てて「助けて」と叫ぶことが大切であると思います。そうすれば必ず、助けてくださる人が現れます。このことは私自身が体験していることです。苦しい時、困っている時こそ「助けて」と叫ぶのです。自分がどうして良いかわからない時、相談できる人がいるかいないかでは大きな違いがあると思います。

先日、発達障害のある男性のサポートをさせて頂きましたが、全く罪の意識がなく、関係のある行政機関でも、彼の親がクレマーというところで関わってくれません。受け入れにくれる施設がなく、当法人が関わりましたが、社会の常識が全く通じません。執行猶予の判決を受けた二日後に、交際していた彼女

を呼び出して行方不明となり、大騒ぎになりました。関係者や私の仲間たちにもお願いして徹底的に探したところ、三日後に無事発見しました。しかし、彼女の両親も警察に通報したそうですが、本人は全く話にならない状態であり、関係者と相談して、もう二十二歳なので自分でこれからの人生を歩んでもらうことになりました。悲しいことですが、これが私にできる限界でした。自分で自分を変えられることをしなければ何も変わらないです。

現在も更生保護施設を強制退会された人をサポートしていますが、自分勝手であり、周囲のことなど全く考えていない状態です。ただ上辺の「きちんとやります」という言葉だけで、その姿（行動）は全く真逆です。関係者に相談しましたが、「理解する力がなく、知的に問題があると思うので、行政とケース会議をした方が良い」というアドバイスを受けてきました。

私にできることはしていきませんが、国も行政も、当法人に対して経済的な支援は全くないです。NPO法人はなんでも無料でするところではありません。私たちも生活があるのです。それを理解して頂きたいです。色々な相談や問合せがあり、当事者を連れてきますが、その人に関係する費用は誰も払ってくれません。

当法人の活動を理解し、応援して下さい方に心から感謝です。キリストは私に「子たち

よ、言葉や口先だけでなく、行いを持って誠実に愛し合おう」(第一ヨハネ三章十八節)と教えて下さいました。キリストを信じる者として実践して行くだけです。そして、本物の方たちが聖書のみ言葉を姿で私に示して下さいっており、それが私の回復・更生の道となっています。

また、「あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれた」(マタイ二十五章三十五〜三十六章)というみ言葉を理解している人は、自分たちが日々していることが、善いことでも悪い事でも、誰にしていることかをよく理解していると思えます。頭で聖書を読んでいるのとは違うのです。受刑者の方から、「毎日聖書を読んでいます」という手紙が来ますが、あえて言わせて頂きます。頭ではなく、心で読み、その言葉を噛みしめ、実践していかなければ意味がありません。

社会でも同じです。教会にいる人が実践しているとは限りませんし、教会がそのことに触れることもないのが現状です。だから司祭の性的虐待が起きるのだと思います。綺麗な教会では意味がないのです。なぜそのような

ことが起きるのか？みんなが考え、キリストに祈り、公にすることが必要であると思えます。臭い物に蓋をするのではダメだと思えます。蓋をせずに明らかにして、その後どうするかが大切であると思います。

皆さん、マザーハウスチャンネル(インターネット配信)で取り上げてほしい内容や、対談してほしい人など、実施してほしいことをメールやお手紙でお知らせください。実現できるように頑張ってください。

また、受刑者の皆さんは、年金の免除申請を、自分の住民票がある役所もしくはその住所を管轄している年金事務所に申請して下さい。当法人に年金の免除申請を送って来てても対応はできません。自分にできることは自分でして頂くようお願い致します。先日も、年金の免除申請をしていなかったために月数が足らず、年金を受理できなかったケースがありました。法律が変わり、十年間年金を納めていれば年金を受け取ることが出来ます。将来、社会復帰するときに役立つように年金免除申請を実施して頂きたく、よろしくお願い致します。免除申請書が必要な方は事務局までご連絡下さい。

最後に、クリスチャントゥデイで取り上げて頂いたオンライン講演会の記事をご紹介します(原文ママです)。

(<https://www.christiantoday.co.jp/>

articles/29807/20210803/hansens-disease.html)

☆

「隔離被害は今も継続されている」
ハンセン病患者者、菊池事件の教訓語る

ハンセン病患者とされた男性が隔離施設の特別法廷で裁かれ、死刑となった菊池事件について考える講演会が7月22日、オンラインで開催された。元患者でハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会事務局長の豎山勲さんが、同事件で得た教訓を語った。豎山さんは、「らい予防法による隔離被害は今も継続されている。被害当事者であるわれわれおよび家族の者たちも、いまだに偏見差別の渦中にある」と訴えた。

講演会は、キリスト教の精神に基づいて出所者の社会復帰を助けるNPO法人マザーハウス(五十嵐弘志理事長、東京都墨田区)が企画した。五十嵐理事長が6月、衆議院議員会館で豎山さんの講演を聞いたことがきっかけだった。五十嵐理事長は、「愛の反対は無関心。知ったからには自分で行動したいと思うことを知って、もっと若者たちがいると思ったら、どんどん言って行動してほしい」と話した。

菊池事件では、1952年に熊本県で発生した殺人事件をめぐって殺人罪に問われた男性が、隔離先の療養所などに設置された特別法廷で死刑判決を受け、無実を訴えながら62年に死刑を執行された。男性の逮捕には、今日まで続くハンセン病患者への偏見差別の原点とされる無らい県運動が大きく関わっていた。

豎山さんから元患者が原告となった国賠訴訟では、賠償請求を退けたものの、特別法廷の審理を違憲とした熊本地裁判決が昨年3月に確定した。豎山さんから原告は昨年7月、再審請求を求める書面を熊本地検に提出。しかし、検察は「事由を認められない」として再審での是正を拒んだ。

そのため、弁護団の呼び掛けに応じた全国の元患者や市民らが昨年11月、熊本地裁に対し、「国民的再審請求」として菊池事件の再審開始を請求。現在も署名活動が行われている。豎山さんは、「違憲と確定判決の出た特別法廷です。違憲な法廷で出された死刑判決であってもそれでいいのだとするこの司法の世界で、人権は、人としての尊厳は、どこにあるのでしょうか」と嘆いた。

らい予防法は1996年に廃止されたが、全国13の国立療養所を中心に今もなお約千人の元患者が入所している。療養所で亡くなった人の多くが故郷の墓に入れず、療養所の納骨堂に遺骨が安置されている。ハンセン

病に対する社会の偏見や差別は「いまだに根強く残っている」と豎山さんは話し、入所者の友人が詠んだという川柳を紹介した。

「もういいかい 骨になっても まあだだよ」

「らい予防法は確かに廃止されました。隔離条項もなくなっております。法廃止から、すでに25年目を迎えています。しかし生きてなお、故郷へ帰れない入所者がいる。死してなお、いまだ故郷へ帰れないご遺骨がある」。豎山さんは、らい予防法によってもたらされた被害の深刻さを強調した。



tatsuyaさん

ハンセン病の感染力と発病力が極めて弱いことは、最初の法律を制定した1907年当時からすでに分かっていた。実際に、これまで療養所の職員からは一人の罹患者も出ていない。それではなぜ、国は90年にもわたって強制隔離政策を続けたのか。

豎山さんはその背景として、明治から大正にかけてはハンセン病を国辱病と考える国辱論、昭和の終戦までは軍国主義や国粹主義の台頭による民族浄化論、戦後は社会防衛の理念を過剰に優先させた社会防衛論があったと指摘。「まさしく医学、科学の目でハンセン病を捉えていなかった。感染の恐れのあるなしかかわらず、すべての患者を根こそぎ隔離収容したという、なんと非医学的、非科学的な、野蛮極まりない政策。らい予防法という法律は、患者を収容して病気を治し、社会復帰を促すという病院そのものが本来掲げている使命感とは遠くかけ離れた、隔離絶滅政策以外の何ものでもなかった」と断じた。

さらに、豎山さんは国立療養所栗生楽泉園（群馬県草津町）の敷地内にあった「重監房」について語った。正式名称は「特別病室」だが、病室とは名ばかりで、実際には患者を重罰に処すための監房として使用された。各療養所にも監禁所が作られ、「監房」と呼ばれていたが、特別病室はそれよりも重い罰を与えたという意味で重監房といわれている。

栗生楽泉園は標高100メートルの高台にあり、冬には零下20度にまで下がるが、重監房には暖房施設が一切なかったという。しかも、屋根は監禁室の部分にのみ設けられ、周囲は露天にさらされていた。冬は監禁室の中にまで雪が吹き込んできたという。

重監房は1938年から9年間使われ、全国の療養所で特に反抗的とされた延べ93人の入所者が入室と称して収監され、そのうち23人が亡くなったといわれている。極寒の時期に遺体を運び出した入所者の話では、遺体を霜柱が覆っており、床に凍りついた敷き布団を引き剥がして外に出したという。

豎山さんは、「北海道の網走刑務所に送られた方々でも、暖房施設のある監禁室でした。草津の重監房に投獄された者たちは、裁判所で裁判を受けて送られたのではなく、療養所の所長に与えられていた懲戒検束権に基づいて所長の思い一つで送られました。これが、ハンセン病療養所の実態」と語った。

最後に豎山さんは、療養所の入所者が強制された断種・堕胎の体験について語った。1998年のハンセン病国賠訴訟で第一次原告団の一人となった上野正子さんは現在94歳。所内での結婚は許されたが、それは逃亡を防止する点で有効との理由で許されたもので、男性は断種、女性はもし子どもができたら堕胎という条件付きだった。

結婚して移った夫婦部屋は12畳半で、4組の夫婦が雑居していた。仕切りもなく、布団を敷いたら歩く場所がないくらいだったという。当時、入所者は職員たちに「座敷豚」と呼ばれていた。「座敷豚に人権やプライバシーがあるわけではないのです。何とも言いようがないですね」。豎山さんは言葉を詰まらせた。

同じく第一次原告団の一人で、2017年に98歳で亡くなった玉城シゲさんは、所内結婚してしばらくすると、妊娠していることが分かった。わが子を産みたい思いでだまっていたが、おなかが大きくなって隠しきれなくなった。外科に呼ばれ、ベッドの上に横にさせられた。堕胎手術は想像を絶する痛さで、途中から気を失ったという。「シゲさん」と呼ばれる声で目を覚ますと、膿盆（のうぼん）に入れられたわが子を見せられた。自分に似て鼻が高く、髪も黒々として、手足をばたばたさせていたという。そして、隣の部屋に持っていかれ、殺された。上野さんとシゲさんがいた国立療養所星塚敬愛園（鹿児島県鹿屋市）では、断種手術を医師ではない介護長がやっていたという。

豎山さんは、「星塚敬愛園でわが子を殺された多くの者たちは、今も殺されたわが子の歳を数えながら生きています。殺されたわが子に付けたかったであろう名前を小さなお人形に付けて毎日を過ごしている、80歳、

90歳の年老いた母たちがいます。断種・堕胎が親の思いでなくて、国の政策で行われていたことを、私たちは決して忘れてはならないと思う」と話した。

豎山さんは最後にこう問い掛けて、講演を締めくくった。

「ハンセン病の療養所でお亡くなりになって、まだハンセン病療養所の納骨堂でおねむりになっておられる物故者の方々と、らい予防法により故郷を奪われ、帰る家さえない約千人の全国の入所者たちが、今皆さんにこう問い掛けております。『もういいかい、もういいかい』。さて、皆さんはこの方々に何と答えられますか」

講演後、新型コロナウイルスの感染者に対する差別問題について聞かれた豎山さんは、感染症法改正の問題点を指摘した。豎山さんは、「入院というのは、個人の意思で行うものでなければならぬはず。それを公権力で強制入院させようとするれば、ハンセン病問題と何ら変わりがない」と語った。また、「本来ならばまず、コロナに感染した人に頑張ってくださいとエールを送るはず。それが言われないで、医療従事者だけを先に応援しようというのとは本末転倒」と指摘。「病人さんが第一ではないのです。病人さんを隔離してしまえ、そして社会の皆さんを守るのだとすれば、これは社会防衛論です。医学の世界に社

会防衛論なんか適用してはいけない」と強く批判した。

マザーハウス理事の渡辺泰男神父は、「私たち一人一人がこのコロナ禍で本当に困っている患者さんのため、自分本位や大多数の側ではなくて、もし私が、という立場を想像して、いろいろな教訓や実践から学ぶことができたら」と話した。



光りんさん

「夕日が落ちてきたのかと思ったよ!」

特別コーナー

にのみやさをりさん講演原稿（再掲）

■ 2019年のたよりでご紹介したものを再掲します(性犯罪をなくす会(チーム上谷)で、にのみやささんが講演された内容)。

—つづき—

一つ。性についての話をするのは、まるで恥か何かのように思われている節が、この社会にはあります。でも、そういうった習慣が、性犯罪について被害者が語ることも躊躇わせ、いわば傷を癒す障害となっていると言えるのではないかと私は思っています。

被害について語ること、被害で受けた傷について語ることを避けていては、いつまでも傷は膿んだままになる可能性が大きい。恥などではない、汚れなどでもない、それが赤の他人からの強姦にしろ、信頼していた人間か

らの被害にしろ、近親姦にしろ、語ってはいけない話などではないはずです。

あなたの傍に話せる相手はいないでしょうか？それはあなたの親かもしれない、兄弟かもしれない、友かもしれない、あるいは、赤の他人であるはずの精神科医かもしれない、ボランティアのメンバーかもしれない。最初は「こんな人!」と嫌悪を抱いた相手が、あなたにとって、いずれかけがえのない相手となるのかもしれない。

誰があなたにとって話ができる相手になるのか、私には分からないけれど、でも、待っているばかりでも人と巡り合うことはできないし、ただやみくもに悲鳴を上げたって助けてもらえるわけじゃない。話ができる相手を見つけ出すには、色んなしんどさが伴うと思う。けれど、いくら時間がかかっても、時間をかけるだけの価値はある、と、私は思っています。

この世界には、答えがくつきり、きちんと出ることもあります。例えば、算数やら数学やら、そんな数字の計算式には必ず、答えというものが在りますね。方程式を辿れば、決まった答えに辿り着く。

しかし、人間の心や体は方程式では解けない。だから何かに辿り着こうとしたら、当然、とてつもない時間を必要としたり、労力を必要としたりします。

もし今、あなたが、性犯罪被害に巻き込まれ、今まさに真つ暗闇のど真ん中に座り込んでいるのなら。慌てなくていい。焦らなくていい。周囲の雑音がどうしたって気になるだろうけれど、それでも敢えて言うなら、今は、あなたはあなたの心臓の音だけ信じればいい。あなたが痛くて苦しくて悲しくて辛くて、喘いでいるときに、それでも必死に、ここで終わるものか、終わってなるものか、と動き続ける自分の心臓の音を。今は生きていくだけで、ただそこに存在しているだけでいい。何かしなくちゃ、なんて思わなくていい。涙も涸れ果て、声も涸れ果て、もうだめだと思わずにはいられない時を、一体何度越えたらいいんだろう、何度越えたら光が見えるんだろう。信じるなんて疲れた、と思わず言ってしまうことがあるだろう。いくらでも言えればいい。いくらでも。

それでも、信じられなくても何でも、絶対に、絶対に日は昇ります。あなたのその部屋にも、必ず夜明けの光が射してくる。必ず。きつと時間はかかる、きつと、長い長い時間が。それでも、やっぱり日は昇るんです。あなたの上にも私の足元にも。

性犯罪に巻き込まれたから汚れた、なんて、とんでもない。性犯罪に巻き込まれたために失うものは、確かに大きい。それでもか、というほどに。でも、失わないで生きていける人生なんていうのも、存在はしない。

そして、あなたが、それでも生きてゆこう、と思えば、死が訪れるその日まで、いかようにも歩いていける。自分にその気さえあれば。あなたも、私も。

余談ですが、私が最初の妊娠出産をした頃：性犯罪被害に遭い、それによってPTSDを抱え込んだ女性が妊娠し、妊婦となった時、そういった過去の体験やPTSDなどを踏まえての処置、あるいは治療を施してくれる病院は、関東圏に少なくとも一つある、という状況でした。また、入院施設はないもの、それを踏まえての指導をしてくれる施設も、数えるほどですが、ありました。

私は残念ながら、切迫流産や前置胎盤等といった絶対安静で過ごさなければならぬ妊娠状況だったために、これら施設が東京等にあることを知りながらも、そこを利用することはできませんでした。当時私が知っている限りで、一つ既にあった、ということは、今はもつと増えているかもしれない。私はそうであることを願います。性犯罪の被害に遭った女性に限って、私が見聞きした範囲で触れるなら、もう結婚はもう妊娠も何も自分にはあり得ない話、と思ってしまうことが多いようです。しかし、そんなことはないです。

確かに困難は山ほどあります。被害に遭った当時の記憶がフラッシュバックするため

に、異性との性行為に支障が生じたり、そもそもパートナーと日常を営むということ自体に困難が伴います。けれど、不可能ではない。可能性は決してゼロではないです。ゼロではない、というところに、どれほど自分を賭けてみるのか、それはもう、その人次第だと思いうけれど、やってみないで最初から諦めるより、信じてみる方がいいと私は思います。もちろん違う生き方だってあります。十人十色、です。

どちらにしても言えることは、自分の道は自分でしか切り拓くことはできない。それに尽きます。

いくら周囲に恵まれ、周囲に助けられても、それらの差し伸べられる手に気付くのは自分、気付かなければそれで終わり。そしてまた、いくら手が差し伸べられても、立ちあがるのは自分の足です。他人が立たせてくれるわけではない。

はっきり言って、私は特別な人間でも強い人間でもないです。でも、初めから強い人間なんていうのはいません。自分の弱さも醜さも受け入れることができて初めて、見えてくるものがあるように、弱さも強さも、それらが適当に交じり合っって織り上がっているのが人間です。あなたも、そのあなたも、あなたも、あなたも、そしてこの私も。

また、ヒトは一人ですが、独りではないです。どんなにぼろぼろになっても、自分が生きたいと思うなら、そこから這い上がることは可能です。不可能じゃない。決して。傷は消えないだろう、けれど、それを自分なりの形で受け止め、そこからまた歩いて行くことは、できます。今、信じられなくても、いくら信じられなくても、それでも今日は、明日は、平等に、誰の上にも必ず来るのですから。



光りんさん「さあ、飛び立とう」

そんな私が何故、今、加害者と対話を始めたのか。それは、少し時間を遡りますが、十年ほど前から思っていたことでもあります。加害者と対話できないか、と。

そもそも私は、自分の被害体験から五、六年した時に、加害者である人から謝罪されたことがあります。その人は身体を九の字に折って、深々頭を下げました。何度も何度も、その謝罪は、私の中を素通りしました。

何故だろう。考えました。そこで気付きました。加害者は、レイプ被害だけを取り上げて謝罪しているんですね。ごめんなさい、悪かった、と。でも、私はそれだけを求めているのではなかったのです。被害後からずっと続く、私の滅茶苦茶になった人生そのものに、謝罪してほしかった。丸ごと、取り戻せるなら取り戻したかった。

ここに大きな隔たりがあります。被害者と加害者との間の隔たり、です。この隔たりは何故、生まれたのだろうか。私はずっとそのことに、疑問を感じていました。

何故、私だったのか。被害に遭った人なら、必ず思うことなんじゃないかと思うんです。何故、私がこんな目に遭わなきゃならなかったのか、と。私もそうでした。でもそれは、被害だけに終わらない、被害後ずっとずっと続く人生丸ごとについて、そう思うんです。被害者は。

でも、加害者はそんなことに思い至らない。この隔たりは、何だろう、と、何故私だったのかという問いを含め、何故この隔たりは生まれてしまうのだろうか、と。それが知りたいと思いました。それが、十数年前のことです。

私が実際に加害者と対話を始める以前、私は同じ性犯罪被害者たちと知り合う機会がありました。同じ性犯罪被害者に声を掛け、被害者同士、集ってもらい、私の写真とコラボレーションしていた時期です。五年ほどの間で、それは、貴重な時間でした。自分は独りじゃないんだと、気付かせてもらいました。十人いれば十通りの被害、傷、痛みがあるのだな、ということをつくづく教えてもらいました。そうして最初は互いに共感し合えた被害者同士でした。が、気付いたら、仲間同士の「比較」が始まっていました。

あの人より私の方が。私よりあのの方が。こうなると、足の引っ張り合いになりかねません。被害者だけで集うことに、限界を感じました。

そんな風に被害者たちとの対話を経験し、そこから一度離れて、私は日々を過ごしていました。その間も、一人でも性犯罪被害者を減らしたい、という思いは変わらなずありました。そして、はっとしたのです。再犯率がこれだけ高い性犯罪は、加害者がたった一人

減るだけでも被害者が数人減るんじゃないか、と。やはり、加害者と対話したい。私は強くそう思いました。

でも、自分は加害者だ、犯罪者だ、なんて、名乗りをあげてくれる誰かとの出会う機会ほとんどなく……。当たり前です。日本で加害者がカミングアウトする機会や場など、ほとんどありませんでしたから。

でも、数年前、小澤雅人監督による映画「月光」が作られた折、加害者臨床に携わっている斉藤章佳先生の存在を知りました。そんな職業があることも、私はその時初めて知りました。

そして、一昨年の春、思い余って私から斉藤先生に声を掛けました。加害者と対話したいのですが、と。斉藤先生は最初驚かれましたが、先生のお計らいで、私は、かつて加害者となったことのある人たちと対面することが叶いました。そうして大体、月に一度ほど対話の機会を得、今に至ります。

対話してくる中で、気付いたことを例えば一つ挙げるとすると、かつて加害者となった方々のほとんどが、自分の被害者について知らないということ。顔も覚えていない。だから、彼らに「一日一分でもいいから、被害者のことを思ってください、祈ってください」と頼んでも、なかなかそれは具体化されないのです。

被害者のことを彼らは覚えていないから、被害者像が具体化されない。そうすると、祈りや想像もうまく巡らすことができない。やがて、被害者を思い浮かべることさえ、しなくなってしまう。記憶からすぼん、と、被害者が抜け落ちてゆく。

被害者が四六時中、加害者や事件のこと、被害のことを考えてしまうのとは、正反対の様相です。この隔たり、埋めることはできないのだろうか。

どうしようもなく隔たりがあるのと同時に、被害者と加害者には似通った状況も見られることに気付きました。それは、被害あるいは加害後の、当事者らの孤立です。

被害者は、被害後、様々なトラウマやパニック、フラッシュバックといったものに襲われ、その症状が深刻化すればするほど、社会と関わるのが難しくなっています。本来ならば、そういう立場の人間にこそ、社会との関わりや社会からの手が必要なのに、関わりが難しくなってしまう。孤立してしまう。そうになると、被害者の状況はもともとして深刻化してゆきます。言ってみれば、悪循環がそこに生まれます。

では、加害者はどうかと言えば、加害後、再犯を防ぐためには社会との関わりが重要であるにも関わらず、性犯罪をしたことによる社会からの極度の偏見が、彼らを孤立させま

す。そうすると、彼らの再犯率は格段に上がってしまう。加害者そして被害者の孤立。悪循環。

この構図、何とか変えることはできないのだろうか。隔たりと相似。隔たりを埋めると同時に、この加害者と被害者の孤立を何とか防ぐ方法はないのか。私は今、それらのことを思いながら対話を続けています。

私は先に申し上げた通り、今は二人の子供とパートナーと日々を営んでいます。PTSDと解離性障害を背負って、世界がモノクロに見えるようになったことがきっかけで、独学で始めたモノクロ写真も、今では、なくてはならないものとして私のかたわらにあります。

でも、ここまで来るのに、四半世紀がかかりました。被害から今年で二十五年目です。長い道のりでした。そして、私の今日は、日常は、ここからまだまだ、続きます。

最後にもう一つ。性被害は、性暴力は、人間であることを破壊します。木端微塵にします。また、被害後に被害者が置かれた環境によつては、酷い二次被害を受け、トラウマが深刻化します。つまりそれはどういうことか。ヒトのアイダにいらなくなるということです。人間でいらなくなると言い換えてもいい。人間という字は、ヒトのアイダ、と書きます。人の間にいてこそ人間なんです。

これで私の話を、終わりにしたいと思いません。耳を傾けてくださり、有難うございました。

—おわり—

社会の声

学生の感想

■岐阜保健大学での講義後に寄せられた感想を一部抜粋してご紹介します（看護学部一年生より。最小限の誤字脱字等以外、原文ママです）。

—つづき—

五十嵐さんは、「痛みを知らない人に医療従事者になってほしくない」と言いました。

人としての痛み、自分を人として見られていなかった過去がある人だけが分かる感覚であると分かったと同時にそれを理解するにはどうしたらいいのかを考えました。人として一番辛いのは孤独であること、普段の生活では本当の意味で孤独になることはほとんどないですが、それを理解しないことには医療従事者を目指す者として患者に寄り添うことは難しいのだと思いました。

人は、自分を必要としてくれる人や認めてくれる人がいると精神的に成長し、改心すると聞いた時には、確かにと思いました。実際自分が求められていると、人は頼ってくれていることに自信が芽生え、自分の本来の実力が発揮できると思っています。先程の孤独もその人を認めることから始めることで精神的に回復させるのだと分かりました。

自分を含め人間全員が犯罪者になる可能性がある、この言葉にも共感しました。何気ない言動から殺人事件に発展することだってあります。関わりが多くなるとその人の良い所も悪い所も出てきます。人は悪い所が目につきやすいので、それが爆発すると殺意が芽生えることもあるでしょう。互いを認め合うことが人として必要だと分かりました。

今回の講義でこれから考えていかなければならないことは、刑務所から出所した人も自分と同じ社会に在るということ、前科者に対する偏見を無くしていくこと、自分の目の前

で事件事故が起き、助けを求められた時に自分はどうするのかということ、人としての痛みを知り、それを今後どういった場面に活かしていくのか、そして、今の生活があるのは誰かの犠牲の上であることを痛感し医療従事者として患者を中心とした家族に寄り添っていく事であると自己解釈し、今後にか活かしていきたいと思えます。



光りんさん「お昼寝」

☆

五十嵐さんは、見守ってくれた人がいるから生きていける・あなたがいるから生きていけると思いながらマザーハウスの活動をしている時、色々な人と対談をして、もがき苦しんでいる被害者が言ってきたそうです。「五十嵐さん、自分が犯した罪は忘れないで」と言われた時、泣いてしまったそうです。なぜなら刑務所の職員は犯罪者として接してきていたが、被害者の方は一人の人間として見てくれたからだそうです。私はいままで皆と上手く作業が出来ない人に「どうして出来ないの？」と、きつく言ってしまった時がありました。一人の人間として接することが出来るように直したいと思いました。

また、医療従事者が大切にすることを言ってくれました。「目の前の人を大切にしてください。患者さんは病と闘っている状況で、信頼関係がないと不安な事などを話してくれないです。信頼関係を作り患者さんと接する事で、どんなことでも相談をしてくれます。笑顔で元気にさせることが出来れば、少しでも回復をすることが出来ると思いました。

話を聞いて、一番大切なことは、犯罪というのとはどんな人間でも犯してしまうので気を付けなければならぬということです。犯罪をして起訴されて裁判されたら前科者になり、就職先や将来の子供が犯罪者の子供扱い

をされ、いじめられたり就職が困難になったりします。なので、行動をする時は将来のことを考えながら行動をしないとイケないと思いました。

☆

「孤独死」という死に方があるように、普通の暮らしをしている人だけでなく受刑者も孤独にしまつたら回復するものも回復できないと思いました。

五十嵐さんが聖書を読んで変わったように、ほかの人も何か変わるきっかけがあればいいのになと思います。

日本は「助けて」と声を大にして言えない、でもちゃんと叫んでいるというのを聞いて声を聞くだけでなく相手の表情を見て気持ちを察していけるようになりたい。色々なボランティアに参加して経験を積み、医療だけでは治しきれない傷をそういつたかわりの中で治るようになりたいかかかります。

今回、元犯罪者である五十嵐さんの話を聞いて我慢や言葉がいかに大事かがわかりました。

☆

「目の前の人を愛する」という言葉がとても印象深く感じた。私は普段何気なく家族と

過ごしているが、家族全員で食事をしたり談笑したりすることがどんなに幸せなことかを実感した。同時に、毎日を笑って過ごせることが当たり前でなく、家族のうち一人でも罪を犯せば周囲の人の人生まで変えてしまう恐ろしさを理解した。私たちはいつでも犯罪者になる可能性があるため、普段から周りの人に感謝の気持ちを伝え大切にすることが重要だと考える。

また、自分の存在価値を理解することは簡単ではないが、だれかに必要とされていることを感じる事ができればもっと犯罪者の数を減らすことが可能だと考える。

五十嵐さんが、「励ましの言葉があるから自分は今生きていける」といったように、言葉はたった一言でも他人の人生を良くも悪くも変えてしまう大きな影響力を持つ。そのため言葉を発するときは一度相手の立場に立って考えてから発言する必要があるだろう。私は普段SNSを利用してはいるため相手を傷つける危険性と常に隣り合わせである。したがって自分には無関係と思わず向かい合おうと思う。

今回の講義を受けたことで、改めて人権や幸福について考え自分自身の行動や社会を見直すことができた。これからも凶悪な犯罪がテレビで扱われると思うが、そのたびにこの講義を思いだし考えるきっかけになると思う。

☆

受刑者が風邪を引いたとしても、高熱があつて苦しくても薬一つももらえないことがあると言っていたのがとても印象に残りました。私は、医務官であれば受刑者を一人の人間として見て、適切な医療行為をしてほしいと思ひました。苦しい時に手を差し伸べてもらえないことは、受刑者にとって孤独なことだと思ひます。この孤独が心を閉ざしてしまひ、健康面が悪化するどころか、更生意欲も失つてしまふと思ひました。医務官がひどい対応をすれば、たとえ社会復帰を果たしたとしても、同じ罪を繰り返してしまふと思ひました。

私もしも医務官という立場の人間なら、受刑者がなぜ犯罪に手を染めてしまつたのか、その受刑者につらい過去があつたのか、心を開いてくれない理由は何かをよく考え、一人の人間として接したいと思ひました。

私は、犯罪行為に至つてしまふ多くの人は何らかの原因があると思ひます。それは、親から虐待を受けて、十分な愛情を注いでもらえずに育つてしまつた人、過去にいじめを受けて心に深い傷を負つてしまつた人など、その人にしか分からない理由があると思ひます。だから、医務官であれば、コミュニケーションを取つて受刑者のことを十分に理解した上で接してほしいと思ひました。また、適

切な医療を提供し、本来の医務官の役目を果たしてほしいと思ひました。

そして、医療従事者になる前に、こうしたお話を聞くことができたことは大変貴重な経験だと思ひました。五十嵐さんが、被害者の方と対談したときに、被害者の方にかげられた「五十嵐さん、犯した罪を決して忘れないで下さい。でも、幸せになつて下さい」という言葉が活動の原動力になつているのだと思ひました。私もこの言葉が心に響き、一生忘れることができません。

☆

罪を犯すのにあたり、被害者と加害者の関係が親族であるケースが多いということに驚きました。五十嵐さんの「近くにゐる人たちだからこそ、感じる事が多いのでしょう」という言葉に、本当に私もいつ罪を犯すのかわからないのだなと思ひました。

今は、罪を犯さないと思つていても、近くにて、言葉をたくさん交わしてゐたり、なにかされたときに自分はそれを全て抑え込んでいられるのか、という考えをしたときに、絶対にしないと切り切ることにはできないな。と感じた私は、今まで遠く感じてゐた受刑者の方々の存在を身近に感じました。

また、医療者の立場として、どう受刑者の方々と接するのか考えました。私は、他の患

者さんと変わらず接することがいいのではないかと、思つていましたが、五十嵐さんの「優しくしてあげてください」という言葉や、それによつて医療行為では治せない傷も治せるのではないかと、という話をきいて、もつと向き合うためには深く考える事や広い視野をもつことが必要なのだなと思ひました。

そして私は、受刑者の方に患者さんとして接するときには、殺す言葉や行動をするのではなく、生かす言葉や行動をしていきたいと思ひました。そうしていくことで、影響を与えていけたら五十嵐さんの言う通り「医療行為より大きなことではないか」と私も思ふので受刑者の方に影響を与えられるような看護師になりたいです。



tatsuyaさん

☆

五十嵐さんは、警察官や受刑者の家族やほかの人は軽蔑し、差別的な目で見ると言っていました。そんな目で見てほしくないと言っていました。私が実際受刑者の人に会った時普段通りに接することが出来る自信がありません。軽蔑や差別が良くないことだとわかっていても少なからず態度に出してしまうだろうなと思いました。

犯罪がどれだけ悪いことだと自覚していても人がいつ道を踏み間違えるかなんて誰にも分からないものだと思います。私自身犯罪に手を染めない、犯罪は悪いことと分かっているのに絶対に刑務所なんかに入らないと思っても入る可能性がないとは言えないところ、私には看護師になるという夢があるのでその夢を叶えるためにも、道を踏み間違えることなく過ごそうと思います。

☆

私は元受刑者の話を聞くと聞いたとき罪を犯した人と対面することが正直怖かったです。ですが、対面してみると罪を犯した方とは思えません。元受刑者だから私たちに伝えたい感情だったり想いを直接聞けてとてもいい経験になりました。その中で心に残ったことが三つあります。

一つ目は、受刑者も一人の人間だということです。国民はホームレスや障がい者など弱い人を傷つけたり、差別したりする人がたくさんいます。受刑者も同じです。受刑者はやはり罪を犯した人だし、人間として絶対にやってはいけないことに手を伸ばした人だから国民の人たちに悪い目で見られるのは仕方ないと私も思います。

ですが、差別するのは違うと思いました。なぜなら、差別することで受刑者の自尊心を傷つけ、心を苦しめていると思ったからです。受刑者も私たちと一緒に生きていくわけだし一人の人間であるのに変わりはありません。全て人間は平等に生きています。差別なく一人の人間として接していかなければいけないと思いました。

二つ目は、目の前の人を大切にすることです。自分が罪を犯したときに私の周りの人に影響を及ぼすと、この講義を聞いて感じました。子供の将来を奪ったり、家族が変な目で見られて嫌な思いをしたりと私だけの問題ではなくなくなってしまう。

手を出したら負け。立派な犯罪者になります。その一つの行動が自分で自分を傷つけ、また私の家族や周りの人たちに影響を及ぼしてしまいます。犯罪に手を伸ばしてしまう前に私の周りの人たちの将来のことを考えることで誰も傷つかない平和な生活が送れると思いました。

三つ目は、相談できる人が周りにいることは幸せだということです。日本では親族間殺人が多く発生しています。その中でも介護疲れや金銭困窮などの理由で自分の父母を殺害するというケースが多くあります。家族の命を奪うという事は育成環境があまりよくなかったり、周りの友達などとの信頼関係が築かれていなかったりと、「孤独」が原因なのかと感じました。相談できる環境があったり、信頼できる人が一人でもいたら傷ついた心を癒してもらえたり、孤独を少しでも回避できるのではないかと感じました。

また、これは看護師になって患者さんと関わっていく中でも大切にしていかなければいけないと思いました。やはり患者さんは病院で生活をしていると話し相手がいなかったり、悩みを聞いてもらえない相手がいなかったりと普段の生活とは違って一人の時間が自然と増え、孤独を感じやすくなると思います。そこで、私たち看護師がどれだけ関わっていくのが重要になってくると思います。看護師の仕事はただ治療のサポートをするだけではなく、少しの時間でも患者さんとの会話をすることで気持ちや和らぎ、笑顔が増え、普段の生活に近づけることができるのではないかと思います。あまり会話をすることが苦手な方にはただ寄り添うだけでも一つのケアになると思います。私が看護師になった時にはこれらのことを大切にしていきたいと思えます。

☆

私は、今回五十嵐氏による刑務所での生活、制度など、私たちにとっての「非日常」を聞いた。第一印象は無論、怖かった。正直、先生から事前連絡をされた時も「犯罪者が来るのか」「もし殺されたりでもしたらどうしよう」といったような先入観がなかったとは言えない。

私自身「犯罪をした人」には、やはりそれ相応の罪を償ってほしいし、犯したことを忘れないでほしいと思っている。その反面、社会に復帰できた時、人のために働いたり、動いたりしてほしいとも思っている。近年、刑務所に服役して釈放されても、殺人や性犯罪などを起こす人が増えていると感じる。

それなら、刑務所の存在の意味は何なのだろうか。はたから見れば、ただ単に人をいたぶり、刑務所という「非日常」の中で、刑務官ただ一人の言うことに従わせているだけではないか。どうしたら、彼らの病を癒せるのか。どうしたら、彼らの「孤独」をなくせるのか。どうしたら、「犯罪者」のレッテルを張られた「人」を救えるのか。これらを解決する導きは、医療従事者にあると私は思う。

キユア（＝疾病の治癒や生命維持を目指す）よりもケア（＝生活の質を維持・向上させ、身体的のみならず精神的・社会的な意味を含めた健康を保つことを目指す）を重視した現

代の医療ならば、彼らの秘められた苦しみを引き出せるのではないかと考える。実際、法人の方やそのほかの人が、刑務所にいる人と文通をしたり、面会をしたりと、支援の幅を広げているようだ。第三者の協力だとしても、彼らにとって心の支えになることは間違いないだろう。

刑務官ではない私たちも、行き過ぎた正義（誹謗中傷）は避けるべきだ。最近の芸能人の自殺事件と関連するが、人を責めるのではなく、行動を責めなければ意味がないと私は思う。

最後に、前述した五十嵐氏に対する先入観、偏見等をしていたことを深くお詫び申し上げます。私もこれから医療従事者として働くにおいて気を付けていかなければならないと感じたし、罪を犯した人でも平等に接することが出来るよう、限られた人生の中で人と多く触れ合い、経験値を積んでいきたいと感じた。

☆



一兵さん

医療官がどれほど厳しくあるべきなのか、私には想像も付きませんが、確かに人の痛みが分からないような人は、医療従事者になるべきではないと思います。

患者の気持ちに寄り添い、心身ともにケアしてあげられるような心優しい看護師になるために、今のうちから人の気持ちを考えて行動したいです。

五十嵐さんは最後に、医療従事者は目の前にいる患者が犯罪者だからといって、看護の業務を放棄することはできない、自分が見てきた看護師は、目の前の人を救いたいという気持ちや信念を持って一生懸命に頑張っていた、と言いました。そのおかげで、自分から愛される、大切にされる、必要とされる人間なのだと感じる事ができたそうです。

患者を愛しく、大切にすることは医療行為より大事なことで、その気持ち次第で回復できる病もある、言葉で人を死なすことも生かすこともできる、と教わりました。

今回学んだことを活かして、人を簡単な物事で決めつけ、判断しないこと、相手の気持ちを深く読み取り思いやること、など今から意識して、将来一人前の看護師になれるように精進していきたいです。

— つづく —

やさきみつお コーナー

ゆだねる

♪ブログ：<http://ixsasaki.ti-da.net/>

一・人にゆだねる

「お話を聞いていただいた日の夜から、数か月ぶりに、ぐっすり眠れました。本当にありがとうございました。」

このようなお礼のメールを、対人関係の大きな悩みを抱えて相談にいられた方からいただいた。「怖くて眠れません」「不安にうなされて、何度も目が覚めてしまいます」と、その方は訴えていた。

相手から電話がきても、嫌な気持ちになり、受話器を取ることができない。メールが届いても、心臓がどきどきして見るることができない。手紙をもらっても、手が震えて開封することができない。

一人で問題を抱え込んでいると、悩みが大

きくなってしまう、それに押しつぶされそうになる。不安と緊張で睡眠不足になり、物事に集中できず、いつもイライラしてしまう。家族や他の人たちとの関係もグスグスしてくる。こうしてどんどん気持ちが悪くなり、精神的にも肉体的にも病んでくる。

そんな時は、まず、電話とメールを着信拒否に設定して受けないこと、そして手紙は私が未開封のまままで預かり、後で開封してその要旨を伝えることを提案している。

「悩みごとをすべて神様にゆだねましょう。相手の方との対応はすべて私がしますから、任せて安心してください」と助言した。

しばらくして、「とても気分が良くなりました」「なんとかできるような力が湧いてきました」という連絡をいただいた。

問題や悩み事は、多くの場合、誰かに話を聞いてもらったり、専門家に解決を任せたりすると、その重圧感から解放されて自由に判断し行動できるようになる。

二・神にゆだねる

ところが、「私に任せてください」と言って、人様の問題を引き受けても、実際にそれを解決することは必ずしも容易ではない。

問題によってはこじれてしまい、その重圧で、今度は私が押しつぶされそうになる。誰にも助けを求められない立場にいる弁護士としては、神にのみ寄り頼まざるを得ないことが多い。

おかげで、神にゆだねる習慣が身につけてきた。神にゆだねる最大のメリットは、不安や恐れから解放され、キリストの平安に支配されることである。

それでは、神にゆだねるにはどうしたら良いのか。問題を神にゆだねたつもりでも、すぐに疑いが出てきて、自分で解決しようともがいてしまう。

神にゆだねるとは、望んでいる事柄を確信し続け、まだ見ていない事実を確認し続けることである（ヘブル十一章一節）。

せっかく神にゆだねても、ゆだね切ることができずに神を疑うなら、願った物事をいただくこともできない（ヤコブ一章六〜七節）。

ある時、組織暴力団の武闘派グループから追われて逃げてきたAさんの弁護をした。

弁護士はいざとなると、まったく一人ぼっちである。警察が常時見張って守ってくれるわけではない。暴力団相手の紛争を引き受けて殺された親しい弁護士もいる。自分だけでなく、家族も狙われる。

ずいぶん迷ったが、その事件を引き受けた。神に問題をゆだねて、祈りに祈り、神の指示をあおいだ。

数週間後、その武闘派グループが仲間割れして暴力事件を起こし、警察沙汰に発展した。「今だー！」と思い、「今後はA氏に一切近づかないことを約束せよ。A氏の要求する慰謝料を払え」という強気の内容証明郵便を送った。すぐに約束の文書が届き、高額の慰謝料が支払われた。

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる」(詩篇三十七章五節)。

「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神はあなたがたのことを心配してくださるからです」(第一ペテロ五章七節)。



五十嵐亜利沙(妻)による

育児日記

長男のA君は、転校してから「相棒」と呼ぶほど仲の良いお友達ができました。ですが、そのお友達は転校する予定があります。一年生の時も「相棒」がいたのですが、お別れをしました。

こんな短期間で出会いと別れを経験する長男はきつと遅くなる!と思いました。

長女のKちゃんは、お兄ちゃんと一緒にヒップホップダンスを習い始めました!どのくらい上達するのか楽しみです♪

次女のRちゃんは、三女のMちゃんの面倒をみってくれるのですが、扱いが雑なので、Rちゃんが近寄るとMちゃんは泣きます(笑)。あと、自分の唾を垂らして、唾で遊ばせるので、本当にやめてほしいです!!

Mちゃんは伝い歩きができるようになって、テーブルの周りを一日十回ぐらいまわっています♡

塀の中のたより

受刑者からこんなお手紙が届いています

思い掛けないお礼

〇刑 Kさん

先日、嬉しいことがありました。私は木工場で機械加工などの作業をしているのですが、数か月前、業者さんから材料提供の元、積み木の発注があり、私はいつもと変わらず加工して納品しました。すると先日、その業者さんからお礼が届いたとのことでした。

どういうこと?と調べていたら、その業者さんは、仕事で余った廃材で積み木を発注し、その積み木を幼稚園に寄付していたようで、お礼というのは幼稚園児たちからの便りでした。今まで積んだこともないくらい高く積み

木が積めたらしく、園児たちはとても喜んでいたようで、業者さんも私たちの仕事をとても褒めて下さいました。

私たちにしてみれば、加工の際に直角や平面を出すのはごく当たり前のことで、褒められるようなことでも何でもないのでですけど、やっぱり仕事を褒められるというのは嬉しいことです。

きつと園児たちは、悪いことをした大人が作ったなんてことは知らないでしょう。そして、お礼というのも、寄付して下さった業者さんへの感謝の気持ちだったことでしよう。しかし、私たちが作った物を喜んで大切にしてくれている小さな子供たちもいると知れただけでも、私たちの方が嬉しい気持ちになりますし、逆に感謝です。また、業者さんの私たちへの心遣いにも感謝です。

私たちが何気なく作った物にもドラマがあり、人を喜ばせたりする力があるんだなと思ったら、一つひとつ丁寧に心を込めて作り、適当な作業はできないかと改めて思いました。



一兵さん

相手を思う気持ちが欠けていると、スムーズに伝わらない

A 刑 G さん

人は自ら気付き変わることはあっても、人を変えることはなかなか無いものです。影響を与えることはあるでしょうけれど、相手によつては影響を受けているように思えない時もあります。

それでもなお、相手を信じることができた時に、それは同時に、自分自身を信じるといふ、誰にも奪われない自分自身のしなやかな心の強さを手に入れたと同じくらい大切なものだと感じます。

自分の心に余裕がないと、自分はもちろん相手の良いところはなかなか見つけられないものです。どちらかと言えば、相手の欠点ばかり目が向いてしまいがちです。ですから、良い部分を時には褒める言葉をかけてあげ、自分の完結に繋がるのではないでしょう。褒める言葉や労いの言葉をかけると、自分自身の心が整い出すからです。

相手がやって当たり前的事に対しても、謝意を言葉にあらわす。そういうことが今の世の中でどれだけ大切かをつくづく感じています。

こういった謝意をあらわす言葉を誰も求めているのに、言葉にしてあらわせない現状は、少し病んでいるように感じます。ネットやSNS等で拡散されるのは、逆に誹謗中傷の類が多いですからね。これはどこでも一般的にある現象なのでしようが、本当に深く考えて判断し、そういった行為に及んでいるとは思えません。

なので最近では、誹謗中傷の類の話が耳に入って来た時は、相手の話を鵜呑みにするのではなく、なぜそのようなことを言うのか、理解するように努めています。ただ、こういった話の内容には肯定も否定もせず、他の誰にも自分の口からは絶対に言わないことが一番肝心だと思っています。

他者の真価を認めようとすることは、なかなか日常の中では難しいのかも知れませんが、それでも人は例外なく他者からの良い評価を受けたいと強く望んでいるのではないでしょう。人の気持ちを傷つけたり、上から目線で命令したりするだけでは、人を変えることは絶対にできないし、全くもって無益だと感じます。相手を思う気持ちが欠けていると、スムーズに人には伝わらないものです。

皮肉なことに、問答無用で頭から否定されたり軽蔑されたりすると、その相手のことを同じく問答無用で否定、拒絶したくなります。きわめて不幸な関係ですが、これは事実かなと感じます。

私のコロナ体験記

大阪のハマちゃんさん

一月に職員数名と受刑者数名がコロナウイルスに感染したことによって、感染拡大対策として、当面の間、炊事・洗濯・入浴が中止になりました。

食事は外部業者の仕出し弁当に変わり、洗濯は部屋で個人的に半袖・パンツ・靴下を午前中に洗うことになりました。入浴の代わりに、月水金もしくは木曜に、拭身と洗髪用のお湯が貸与されて、部屋で行うようになりました。

さらに数日後、職員と受刑者合わせて五十名近くが感染したということで、保健所からクラスターに認定されて施設運営が完全に止まってしまいました。

このことから、感染拡大の元は炊事場だと思われる。後から聞いた話ですが、炊事場の担当職員が感染して、濃厚接触で受刑者に感染していったらしいです。

受刑者にも感染者が出たことで、非布マスクが二枚着用となり、二枚とも毎日交換することになりました（それまでは、非布マスク一枚着用で毎日交換していました）。

入浴時の髭剃りや爪切りが中止になりましたが、髭剃りは二月頃に、官物の髭剃りを使っている人に対して電池式カミソリの貸与がありました。

爪切りの方は、二月頃から約二週間に一回のペースで、部屋で切れるようになりました。運動は部屋のみでした。

また、感染者専用フロアを三フロア分、作ることにしました。なぜ三フロア分かと言いますと、感染者と濃厚接触者と病後観察者のフロアがそれぞれ必要だったからです。

すると三フロア分の人間が部屋を移動することになるので、単独室から共同室に移された人たちは不満で相当ストレスになっていたと思います。

私は一度施設で結核になり大変な目に遭いましたので、コロナウイルス感染には施設のルール内で、自分自身で出来る範囲で十二分に気を付けていたのですが、油断があったのか、一月末に風邪の症状が出て体調を崩しました。熱は無かったので風邪かインフルエンザのあたり始めくらいに思っていました。その後、コロナウイルス感染特有の症状である味覚及び嗅覚障害は出ませんでした。体調が一向に良くならないので、唾液のPCR検査を受けることになりました。施設がクラスター認定直後だったこともあり、自分はきっと陽性反応が出ると思っていました。

で、検査の結果が陽性だったときは、さほど驚くこともなく「やっぱりか」と思いました。

それからはすぐに治療のために部屋を移され、隔離されました。といっても治療方法は症状に合った投薬くらいしかなく、とにかく安静にして生活するしかありません。

症状は数時間の間にコロナ変わり、その時によってまちまちで、良い時と悪い時の波が激しく、起きているのが辛く、自然と横になってることが多かったです。

この施設では感染後のPCR検査はなく、入病は一か月を目安に、体調が良くなった者から病後観察者のフロアへと移されていきます。

後遺症については、いつを完治とするのかによって変わってくると思います。軽症者でも、なんだかんだ言って一か月くらいは症状が治まりません。一番怖いのは症状ではなく、様々な病気にかかるのではないかと怯えながら生活してしまうことだと私は思っています。

私の場合は血管に何か違和感があり、三月に入病を解除されましたが、今でもこの強迫観念に悩まされています。

看護師 中谷先生による

健康相談窓口

施設における熱中症対策

皆さん、暑い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。近年、異常気象の影響による気温上昇を体感しています。七月下旬に北海道の利尻島、礼文島へ行って来たのですが、気温は三十三℃と、北海道では有り得ない気温上昇がみられ、住民の方々もげんなりしておられました。

マザーハウスのスタッフも、ゴルフ場の草取り作業で熱中症になってしまったと、理事長から報告を受けました。現場監督がいるので、本来であればスタッフの安全管理もその方の責務であるとは思いますが、それよりもスタッフの生命が第一ですので、私が考える方法をお伝えしました。施設で生活される皆様にも、施設内でも対応がなされていると思いますが、厚生労働省から示されている内容を踏まえお伝えしていきたいと思えます。

M県では、ワクチン接種が二回完了したと報告を受けました。皆様の安心・安全を守るためにも、早くワクチン接種が進むことを願うばかりです。私のもとへも、住んでいる地域からワクチン接種の案内が届きましたが、なかなか予約が取れませんでした。パソコンに慣れている人はその予約操作も難なくできるのでしようが、慣れていない人にとっては、とてもじゃないですが、難しいと感じて対応が遅れてしまう、もしくはワクチン接種をすることも諦めてしまうのではないかと、思いました。電話でも受け付けてくれますが、なかなか繋がらないとも聞きます。国民全員が取り残されることなくワクチン接種を受けられるシステムを作り上げてほしいものです。

もちろん、ワクチン接種だけでは感染拡大を抑えることはできませんので、手洗い、うがい、マスク、密を避けるなどの基本的な対策は個々でもやっていかないとはいけませんね。

施設においても、一人四枚ほどマスクが支給され、装着が義務化されています。そのマスクの取扱いですが、以前「たより」でもお伝えしましたが、ご記憶にありますか。毎日、石鹸で汚れを洗い流して干したものを着用していますか？必ず毎日新しいマスクを装着してくださいね。洗濯が大変かも知れませんが、感染を予防するためにもお願いしたいです。

マスクを一日装着していることにより、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、体感温度が上昇するなど、身体に負担がかかることがあります。したがって、高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなる恐れがあるので、屋外で活動するときは、人と十分な距離（少なくとも2メートル以上）が確保できる場合や、外せる許可のある場合は、外してください。外での活動もこの暑さですので、中止になっているともお聞きしましたが…。

六人の居室で生活されておられる方は、マスク装着に対して、どのような指導がされているのでしょうか？また、お聞かせください。マスクを装着していると、のどが渇きにくくなります。そのため、熱中症を起こしていても気がつかずにいることがあります。水分補給の時間が定められていけばいいのですが、ない場合は、可能であれば一時間ごとに水分補給をして頂きたいと思えます。

この暑さなので、タオルで身体を冷やしたりすることも認められるようですね。その際は、足の付け根の大腿動脈や脇の下の腋窩動脈などの大きな血管を冷やすようにしてください。

熱中症の種類には、熱失神、熱痙攣（けいれん）、熱疲労、熱射病の四つがあります。

熱失神は、皮膚血管が広がり、血圧が下がり、脳への血流が悪くなることで起こります。特徴は、めまい、一時的な失神、顔が真っ白になる、脈が速く弱くなることです。

熱痙攣は、大量に汗をかき、水だけを補給して、血液の塩分（ナトリウム）濃度が低下した時に、足、腕、腹部の筋肉に痛みを伴う痙攣が起こります。

特徴は、筋肉痛、手足がつる、筋肉の痙攣です。

熱疲労は、大量に汗をかき、水分の補給が追いつかないと、身体が脱水状態になり、症状がみられます。

特徴は、全身の倦怠感、悪心（吐き気）、嘔吐、頭痛、集中力や判断力の低下です。

熱射病は、体温の上昇のため中枢機能に異常をきたした状態のことです。意識障害（応答が鈍い、言動がおかしい、意識がない）がみられたり、ショック状態になったりする場合もあります。

特徴は、体温が高い、意識障害、呼びかけや刺激への反応が鈍い、言動が不自然、ふらつきがあることです。

これらの症状があらわれた場合は、熱中症ですので、早めに担当者に伝えて対処を願ってくださいます。

また、周りの方にこのような状態がみられた場合にも、早めに報告をしてほしいと思います。

五十嵐亜利沙（妻）による

ラブリイDAYS

先日、実家の母が自宅に遊びに来てくれて、帰りに車で送って行きました。

実家に着いて、車の外で母と夫が話をしていると、実兄が家から出てきて不意打ちで夫に殴りかかってきました（詳細を書くこと長文になるので割愛しますが、実兄は私達夫婦をずっと恨んでいます）。

警察沙汰になり、夫は告訴する気満々で警察署に向かったのですが、なんと、着くなり、その暴行を受けた部分の記憶だけが消えてしまい、被害届が出せなくなっていました（未だに思い出せないので）。

あんなに普段は記憶力が良くて、自分が犯した事には責任をしっかりと取り取らせるようにしている夫が、記憶をなくすなんて…。私は神の計らいだと感じました。

回復プログラム実践

■「回復プログラム係」宛にお手紙で回答を送って頂ければ、スタッフより個別に返信致します。なお、事務局やフランシスコ等、他のお手紙との同封はせず、個別に「回復プログラム係」宛に送付して下さいますようお願い致します。

【第四回目】

1. それぞれの年代（〓五歳まで／〓十歳まで／〓十五歳まで／〓二十歳まで／〓今まで）で、「いちばん楽しかったこと」は何か。
2. それぞれの年代で、「いちばん苦しく、辛く、悲しかったこと、傷ついたこと」は何か。
3. それぞれの年代で、「親から頂いた、受けたもの」は何か。

（例）善いこと…肯定された、愛された、一人の個人（人間）として認めてくれた。自分でものごとを考え、判断し、決断し、自由に実行できたか。

（例）悪いこと…否定された、批判、非難、無視、怠情、無関心、相手にされなかった、認められなかった、虐待された（言葉で、行為で）。何をすることも親の許可が必要だったか、親の干渉があったか。

専門インストラクター ニロ先生による

プリズムアート倶楽部

★このコーナーは、絵画の模写を体験するもので、絵画技法の習得を目指すものではありません。模写（アレンジOK）の投稿を募集中です。
★当技法についての詳細を知りたい方、また、作品発表等について考えている方は、規定が設けられているため必ずご相談ください。

ひまわり

【今月号のコツ】



小さい頃の思い出になります。昔、実家の周りは畑ばかりで、沢山のひまわりが咲いていました。保育園へ行くときも、小学校へ行くときも、ひまわりを見ながら歩いていました。

ひまわりって、どうしてあんなに花が大きくて、種も沢山あるのだろう？と、とても不思議に感じていました。

皆さんのひまわりの思い出は、どのようなものでしょうか？では、準備が出来たら、描いてみましょう。

ひまわりの花になる部分は、長い丸を描いてください。

中は、網目のように線を細かく入れてみましょう。

花弁は、長い丸を描いて、先端を細くします。花びらに縦線を入れて変化をつけると、可愛らしくなりますよ。

花を描いたら、次は茎を太目に描いてみてください。
葉っぱも、大きく、先端を細くしながら、丸みをつけて描いてみてくださいね。

形は、ハンドペイントの良さを生かして、不揃いでも、何でも構いません。
見本の絵と全く同じではなく、アレンジして、楽しく描いてください。

絵は、自分の中のイメージを表現する事が大切なので、自由に、楽しみながら、表現されてください。

【解説】

ボタニカルファインアート技法とパステルアートのコラボレーションで描いていますが、ボールペンや鉛筆等、入手し易い文具で描いてくださって結構です。

ボールペンは、PILOTの細いペン等が推奨されていますが、描きやすいと感じるもので良いと思います。鉛筆は、形が見やすいように、B以上のもので濃く描くと、質感も柔らかく、描きやすいです。HBやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかと思えます。

文通をされている方は、見本の絵を色々アレンジして、便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになりますので、ぜひお試しください。

ご支援 誠に有難うございます！

〈 7月1日～7月31日 〉

寄付金：234,400 円
(別途、愛のプリズム基金：2,000 円)

行事予定

▼9月7日 18:00～

オンラインにて、APS研究会 (in 京都)

編集後記 by 編集局

今月号もお読み下さり有難うございます♪
よく、「たよりが同囚より遅く届く」とのお手紙を頂きますが、同封物などの関係で、発送作業をしやすいように順番を調整しているので、お手元に届く期間がずれることがあります。どうかご理解・ご了承下さいますようお願い致します。



t
a
t
s
u
y
a
さ
ん

お知らせ

【重要】 フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用されない方は、会費の分納が可能です。なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できませんので、あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう、お願い致します。

【重要】 下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。

- 突然たよりが送られなくなった。
- 刑期（出所日）が変更になった。
- 切手やお金を送った後、2か月が経っても、受領書が届かない。
- 入会申込書もしくは会費を送った後、2か月が経っても、マザーハウスから何も届かない。
- 年金に関する手続きを希望する。
- 聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料800円分が必要です）。

【重要】 会費やフランシスコの費用を切手で納める場合（84円以上の切手のみ使用可）は、1枚につき現金交換手数料5円がかかります。
(例) 100円切手×5枚の場合：500円－手数料5円×5枚分＝受領額475円

○たよりのコンセプトは、刑務所と社会の双方に向けて、「こういう意見・思いが届いています」と発信して橋渡しをすることなので、こういう考え・感性の人が刑務所・社会にいて、マザーハウスを通して自分と繋がりを持っている、という感覚で読んで頂ければ幸いです。

なお、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります(受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります)。ですので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、よろしくお願い致します。また、たよりはマザーハウスのホームページでも公開されます。

マリアコーヒー (ルワンダ・コーヒー)

♪製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 粉200g または 豆200g …… 972円 (税込)

カフェドリップ10g (1回分) …… 108円 (税込)



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま (順不同) ☆

カトリック茅ヶ崎教会/カトリック北仙台教会/カトリック所沢教会/カトリック浜松教会/カトリック東山教会/カトリック布池教会/カトリック菊名教会/カトリック中和田教会/カトリック新子安教会/カトリック碑文谷教会/カトリック桃山教会 (平和環境部)/カトリック東仙台教会/カトリック春日部教会/カトリック足利教会/カトリック神田教会/カトリック太田教会/カトリック大分教会/カトリック西千葉教会/カトリック下井草教会/カトリック新潟教会/カトリック多治見教会/カトリック芦屋教会/カトリック鷺ノ宮教会/カトリック松戸教会/ドン・ボスコ社/クリスト・ロア宣教修道女会/日本カトリック神学院/聖母訪問会



☆ルワンダの祈り☆

ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

マリアの紅茶

♪オーガニックの純スリランカ産のセイロンティーです。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 50g (2g入り25袋) …… 756円 (税込)

オンラインでのご注文: <https://mariacoffee.shop/> (QR ↓)



マザーハウスたより 21'8月号

発行日: 2021年8月15日 発行責任者: 五十嵐 弘志
〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-3F NPO法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook ↑ 理事長奥さんブログ ↑ MLP 問合せ

ラウレンシオ (便利屋業)

♪元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

(2020年12月より、株式会社ルツに移行しました。)

TEL: 03-6659-2110 / FAX: 03-6659-2180

メール: info@ruth-llc.co.jp

獄中POSTシリーズ

♪獄中ボランティアの方が描いた絵画や文字を、ポストカード・封筒・便箋等に印刷する企画です。

FAX: 03-6659-5270

メール: motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↑)

入手方法: 講演会等での販売のほか、ご注文を受け付けております。

☆ポストカード/封筒は1枚300円、便箋は10枚300円(税込)

☆ホームページにカタログ(随時更新)がございます。

☆収益は、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。



古本募金 (きしゃぼん)

♪書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先: 〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぼん係

(マザーハウス事務所に送らないようお気を付けてください)

TEL: 0120-29-7000

お問合せ

いつも有難うございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL: 03-6659-5260

メール: info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ: 「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



ご支援

☆正会員 (一口5000円/年) ☆賛助会員 (一口3000円)

☆社会復帰支援(ご寄付) を随時募集しております。

→振込口座名:

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ】マザーハウス

郵便振替口座 … 00170-0-586722

みずほ銀行 … 新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先:

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL: 03-6659-2110)